

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101950		
法人名	社会福祉法人 緑葉会		
事業所名	グループホームさくら「第1ユニット」		
所在地	長崎県西海市大瀬町西濱号1603-12		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

残存機能を最大限に活かしながら、本人の力で出来る事が出来るよう支援している。また、本人の趣味趣向に合わせてながら活動を促し楽しい生活を送ってもらえるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは新型コロナ禍にあり、職員は利用者のストレス軽減に向け、玄関先にテーブルを出し自然の中で、お茶会や病院受診の際のドライブ等、日常生活に少し変化を持たせることで、気分転換を図っている。また利用者・家族の喜びとなるよう、仕切りを挟み2メートル越しの面会を行っている。病院受診や入浴等、必要に応じたユニット間連携は、チームワークの良さが窺える。管理者は、計画していたものの出来なかったことを次の事業計画に記載し、改善の道筋を付け、職員の意識向上を図っている。職員手作りの食事を皆で楽しく食したり、できることの手伝いを率先して行うことが、本人の生きる糧となっている。来訪者を迎える際の利用者の笑顔と元気な挨拶から、大家族の一員として過ごしていることが窺える。理念の中の「自分らしい生活」を叶えているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101950		
法人名	社会福祉法人 緑葉会		
事業所名	グループホームさくら「第2ユニット」		
所在地	長崎県西海市大瀬町西濱号1603-12		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の笑顔を大事に関わりを多く持てるよう取り組んでいる。少クイン主体ではなく利用者主体で生活が送れるよう取り組んでいる。環境を活かした活動を本人の趣味趣向に合わせてながら活動の場を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしい生活を送るための個々の生活歴、趣味を活かせる機会を提供している。	理念は、年度初めに職員に周知すると共に、管理者は職員が支援に迷う時、ユニット会議で事例を挙げ、自分に置き換えて考えるよう常に伝えている。できることを継続することで、利用者が在宅時と同じように、前向きな気持ちで元気に過ごすことができるよう職員は支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に案内招待し、地域の学校、保育園との交流に繋げている。地域行事の見学を実施し地域との交流を図っている。	保育園児やボランティアの訪問、法人の夏祭りや地域の神社祭りの見学時に、地域の知り合いと交流する機会があったが、新型コロナ禍では極力、外部との接触を避けている。食材は、地域商店を利用し、地元在住職員より、地域情報を得ている。年1度の草刈りに参加予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて状況、活動報告を行い助言を頂いている。現在5回実施。3月に6回目を実施予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た提案・助言を受け、ホーム又は法人会議にて提案し次回会議に繋がるようにしている。	会議開催6回の内、1回は行政、近隣同業施設理事長、地域知見者、家族代表等多数の参加で開催し、活動報告の他、新型コロナ禍に於ける対策等、活発な意見交換があり、議事録から運営の透明性が窺える。5回の書面会議は返信封筒を付け送付し、意見をサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の異動届や運営推進会議にて情報交換し協力を得ている。不明点や疑問点があった際は連絡を取り助言を受けている。	管理者が、書類上の手続き等、市担当課を訪問したり、不明点を電話で尋ねている。また、市担当課の問い合わせや来訪がある。法人の在宅福祉課を通じて情報を得ることもある。行政とは日頃から連絡を密に取り、研修案内には受講して協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会にて理解に努めている。また、勉強会を利用し職員の理解に努めるとともに研修を行っている。	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、運営推進会議にて報告している。職員は、ベッドで同姿勢を保ち、高齢者疑似体験を行っており、拘束に対する意識向上を図っている。法人主催の高齢者虐待の研修に参加しており、ホームでは、拘束しないことを基本に支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会にて理解に努めている。また委員会による虐待に関するアンケートを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の利用者が成年後見制度を利用している。施設内では冊子を置き閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書類を用いて説明している。また入居される前に説明を行い、理解を得たうえで当日に再度確認し不安や疑問が無いよう努めている。契約書は施設・家族1部ずつ保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にアンケートを行ったり、意見箱を設置することで意見や要望を把握し運営推進会議等で報告を行っている。家族の面会時や利用者との話を傾聴し記録することで改善点がある場合は修正している。	契約時に苦情解決については説明している。職員が聞き取った家族の要望等や管理者に報告し的確に回答することをルール化している。毎月利用者ごとの写真入り便りを作成し、家族に送っており、日々の様子がわかると好評を得ている。また、独自にアンケートを実施し要望を聞き取るなど工夫していることがわかる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り職員の意見・提案を把握し、法人上司に報告し業務改善に努めている。	職員は、管理者に日々の会話や会議の場で意見やアイデアを伝えている。職員の資格取得については、勉強会を事業計画に記載し、実施してサポートしている。ホームでは、管理者、法人本部部长等と全職員との個別面談を行い、意向を確認している。職員の希望で料理のバリエーションを増やすためオープンを購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月希望休を提出してもらい勤務のストレスが軽減できるよう勤務シフトを組んでいる。悩みや相談などがある場合は時間を作り個別に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やホームの勉強会に参加し知識を得る機会を作っている。法人外研修では案内を行い参加希望者を募り参加の機会を与えている。参加させたい研修には個別に話をし理解を得たうえで参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知見を有する方と運営推進会議時に情報交換を行い実践に繋げている。また、法人外研修に参加時に交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント(課題分析表)を活用して本人の状態や状況に応じてコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時に要望・不安を傾聴しその都度、説明を行い安心できる関係に努めている。定期的にアンケートを実施し意見の吸い上げを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の情報・本人の現在の状況を細かく記録して、必要とするサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話を傾聴し、共にゆったりと過ごす時間を作り、本人の理解に努めている。また会話の中で出来ること出来ない事を把握し、出来る事の支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「さくらだより」「収支報告書」にて活動、生活状況を掲載し伝えている。面会時には状況説明も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同地域の方が多く、昔からの知り合いであることも多い。生活の中で交流が持てるように支援している。また、知人との手紙のやり取りの支援を行っている。	ホームでは、新型コロナ禍で面会が困難になる中、方法を工夫し、仕切りを挟み2メートル越しの面会を行っている。家族は面会が難しいため、本人が好きな花や菓子類を送っている。利用者同士が同じ地域であり、仲良く歓談する場面もある。新型コロナ禍で馴染みの人や場との継続について工夫していることが見てとれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りコミュニケーションを図ったり、一緒に食事・洗濯等の手伝いを楽しみながら出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退所、他の施設への移設後も面会に伺っている。また年賀状も出して関係を保持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の出来る事はしていただき、出来ない事は一緒に行い支援している。また出来ない事に対しては小さなことでも一緒に出来るよう支援している。	職員は、利用者一人ひとりの得意なこと、好きなことを把握している。難聴の利用者にはゆっくり、しっかりと話し掛けており、表出困難な場合は支援時の表情から判断している他、家族に尋ねることもある。ただし、本人の生活歴を聞き取っているものの、記録がない。	生活歴等を聞き取った際に、記録していくことで本人のこれまでの生活の様子が見えてくることが期待できる。今後は、把握した生活歴の記録を重ね、支援に繋げていくことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時に関係者より情報を頂き、入所後は本人との会話の中で暮らしぶりを引き出し情報収集を行いケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況、状態に合わせ支援している。また、異変を感じたら早急に看護師と連携を取り、多方面から利用者の状態を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	経過観察簿や24hシートの記録を活用し職員間の情報を共有し、適宜の見直しを行い、ケアプランに反映している。	入居時は、本人・家族と面談し、2週間の暫定プランを作成し、ユニット会議で評価後、長期6ヶ月、短期3ヶ月の介護計画を作成している。経過記録や24時間シート、申送り等、職員間で情報共有し、家族の意見を反映した介護計画は、家族に同意を得て実践している。退院後等、変更がある時は、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録簿・チェック表・申送りノートを活用し職員間で情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望、本人の状態に合わせた職員間で意見交換・会議を行い状況に合った支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得て交流する事ができ、1人1人が楽しく過ごせるよう支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の定期健診、体調不良時の受診共にできている。また、本人希望にて受診したい場合など予定を組むなどし対応している。受診後は報告・記録掲載している。	内科、専門科共に、入居前のかかりつけ医を継続しており、利用者の状況を良く把握している職員が、受診支援を行っている。定期受診は便りで報告し、薬や検査、入院等変化がある時は電話で報告している。週1回、訪問看護師による体調管理と助言、24時間の法人看護師とのオンコール体制を整備する等、夜間緊急時に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オンコール体制を整えている為、異変時や急変時は常時連絡を取れる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添い情報を提供している。また、病院関係者とも情報交換を行っている。認知面が進行しないよう早期の退院へ繋げるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化があった際、ドクターの所見等をふまえ今後の可能性を家族へ説明し協議を行っている。	重度化した場合における対応に係る指針をもとに、ホームでは看取りをしない旨、契約時に家族に説明、同意書を得ている。利用者の状況変化時に主治医の判断を基本として、職員・家族で協議を重ね、医療機関への移行となる。看取りの事例はないが、利用者、家族が安心して終末期を迎えられるよう思いに寄り添い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	119番通報やAEDの使用方法など手順を研修で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	通報訓練・緊急時の連絡体制の訓練を実施している。	消防署、消防設備会社立会の夜間想定を1回、昼夜間想定自主火災訓練を2回実施している。防火管理者は、次の訓練に活かすべく、反省を総評として、職員に伝えている。自然災害では、台風時に避難誘導を行っている。備蓄や非常持出しは整備しているものの、利用者情報の追記はこれからである。また、消防団の参加がない。	利用者が避難先で、途切れない支援を受けられることができるよう、利用者情報の工夫が望まれる。有事の際は、一人でも多くの手助けが必要であり、利用者、職員の命を守る為にも、消防団の訓練参加に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付け声掛けを行っている。入浴や排泄時にはプライバシーを配慮した支援を行っている。	職員は、利用者が失敗した時の合言葉を決めており、本人や周囲が気づかないように配慮し、さりげなく支援している。家族に写真掲載の同意書、職員の守秘義務の誓約書が確認できる。ただし、居室のパッド類、使用しない時のポータブルトイレが見えるところにある。また、利用者への言葉掛けが課題である。	職員と利用者の距離が近いことと友達のような言葉掛けは、別であると考えられる。人生の先輩として尊敬の念を持ち、言葉掛けへの配慮に期待したい。また、本人の尊厳、羞恥心に配慮した居室の設えが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に依頼する際は必ず本人に声掛けを行い本人の意思を確認してから実施し職員の都合で押し付けないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がしたいことを優先し本人のペースで行動が出来るよう		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室の支援を実施している。また本人の意思を確認しながら洋服選びをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の材料や菜園で収穫した食材を利用し、一緒に準備し楽しく食事をしている。菜園での収穫も行い育てる楽しみへ繋げている。	4日交代で職員が献立を立てている。嗜好は入居時に聞き取っており、日々の喫食状況からも把握している。調理専門の職員がいる他、他の職員も調理することがある。祭りでは外食業者の弁当を頼んだり、誕生日にはケーキを注文しお祝いしている。また、新しくオープンが入り、利用者は手作りおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各職員が献立を作成し隣接施設の栄養士に相談し助言をいただき次の献立に生かしている。排便・水分提供時間を記録し一定量の水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に実施。夜間義歯の洗浄を実施。また定期的に協力医療機関から口腔ケアを実施している。月2回実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録用紙に排泄記録を行い把握に努め必要のないおむつ等オムツ外しにつながるよう支援している。	職員は利用者ごとに24時間シートを用い、排泄のパターンを把握している。退院後にオムツ着用だった利用者が、日々の排泄支援にて布パンツ利用に改善した例がある。毎月のユニット会議でパッドのサイズを検討している。本人の希望に沿って、同性介助で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分量の確保に努め排泄を促進している。排便がない日が続くと下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1度は入浴ができています。しかし本人の体調・希望等を優先し声掛けを行い入浴の支援を行っている。	毎日、湯を沸かしており、週に2、3回入浴できるよう支援している。入浴拒否時は、清拭にて対応しており、希望によって足浴やシャワー浴などで支援している。1対1での入浴時間は、ゆっくりと会話し、家族のことや昔の話を職員は傾聴している。同性介助は希望に沿っている他、薬用入浴剤を入れるなど、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の体調を優先しながらできるだけ日中は活動し生活が遅れるように支援し夜間の安眠に繋げられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が管理・指導のもと服薬支援を行っている。誤薬防止の為2人体制で確認、服薬時は名前・時間の確認を声に出し確認し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人にできることは行ってもらいながら、楽しくできるよう努めている。毎日行うことで役割を感じてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事は全て中止となり外出支援が出来ていないが施設外の散歩や外でのお茶会等を行い施設外に出るようになっている。	昨年の正月は初詣に出掛けているが、今年は新型コロナ禍のため、神社の模型を設置して参拝し、書き初めしており、職員の工夫が確認できる。敷地内の広い庭を利用し、桜や藤棚など花見を楽しめる環境がある。病院受診の後は、降りないもののドライブを楽しめるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にて管理している。購入品があれば本院確認のうえ支払い支援を行っている。毎月家族へは収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人からの手紙・荷物の受け取り後は本人に直接電話をしてもらっている。家族にも報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾り付けを行っている。また、リビングから見える場所には季節の花々を植え成長を鑑賞できるようにしている。	玄関の植物やリビングの季節の飾り物、リビング窓から桜や藤の開花を眺めて、季節を感じるができる。壁に行事写真を掲示したり、キッチンでの調理の様子は家庭的である。トイレや浴室は、利用者が目視で確認できるよう表示している。利用者同士の明るい笑声等自由な暮らしが窺える。清掃や換気で清潔に配慮した環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファの他椅子を設置し気の合う方々で過ごせるよう状況に応じて椅子の場所を変えたりし、楽しく過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具・テレビ・仏壇・家族写真等自由に置くことができるよう家族に説明している。できるだけ自宅で生活していた環境に近づけるよう努めている。	表札は、利用者の目線に合わせて低い位置にある。利用者が慣れない環境に影響されないよう、自宅で使用した物を持ち込み、設えている。仏壇や遺影に毎日水を上げ手を合わせたり、日記をつけたり、テレビを見たりと自由に過ごしている。職員による清掃や換気、日差しはカーテンで遮り、毎週、シーツ交換等、清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂の場所などわかりやすいように大きな字で表示している。見守りができるように職員配置し安全にできるよう支援している。		